●訓練第１部（避難訓練）

南海地震発生を想定し、全国瞬時警報システム（Ｊ－ＡＬＥＲＴ）を使用し、防災行政無線から緊急地震速報を流しました。その後、高知県に大津波警報が発令されたとの想定で、防災行政無線と消防サイレンにより、避難指示を発令し、避難訓練を行いました。この訓練は、須崎市の防災の日である１２月２１日（昭和南海地震の日）直近の日曜日に地震防災訓練として行っていたのを、今年度は総合防災訓練の実施にあわせて、総合防災訓練の第１部として、行いました。

●訓練第２部（南海地震発生後２４時間以上経過）

・応急医療訓練…地震による負傷者が多数いるとの想定で、避難者（須崎高校）による応急処置を実施しました。また、負傷者等多数のため、災害対策本部へ救援要請を行い、本部に参集していた地元医師団を派遣し、現地へ到着後、医療救護所を立ち上げ、トリアージや応急処置を行いました。その後、医療救護所で治療中の患者の容体が悪化し、後方支援病院へ搬送する必要が生じたため、①須崎消防署に救急要請②高知県消防防災航空隊ヘリの派遣要請を行い、ヘリ着陸不可との想定で、ヘリへの吊り上げを行い、医ヘリ搬送を行いました。

医療救護所（トリアージ、応急処置）

ヘリ吊り上げ

・炊き出し訓練…地震・津波により、緊急避難場所に多数の避難者がおり、避難から２４時間以上経過し、食事等の必要があるとの想定で、須崎高校や日赤奉仕団による炊き出しを行いました。

・給水訓練…南海地震発災後から２４時間以上経過しており、水の確保が必須となっているとの想定で、市水道課が給水車を準備し、給水車を派遣しました。なお、市内８地区の地域防災連絡協議会の協力のもと、給水を実施し、水の確保を行いました。

・倒壊家屋からの救出訓練…情報収集伝達訓練にて須崎警察署から「倒壊家屋に救助者がいる可能性有」との報告を受け、陸上自衛隊第５０普通科連隊と須崎消防団・須崎警察署、それぞれが捜索を行い、倒壊家屋からの救出訓練を行いました。

・埋没車両からの救出訓練…情報収集伝達訓練にて須崎警察署から「埋没車両発見」との報告を受け、須崎消防署へ救助要請を行い、到着後、埋没車両内の捜索・救助を行い、救助後、医療救護所への搬送を行いました。

・**建物火災消火訓練**…南海地震発生後の余震にて、倒壊家屋から火災が発生し、その火災が隣接する倒壊家屋へも延焼し、被害が拡大しているとの想定で、地域防災連絡協議会が初期消火を行うとともに、須崎消防団が出動しました。また、地域防災連絡協議会が初期消火を行うと同時に、消防団に増援要請を行い、増援にかけつけた須崎消防団が消火活動を行いました。

・積み土のう訓練…地震による、地盤沈下の影響で、道路や民家への浸水の危険性があるとの想定で、積み土のう訓練を行いました。

・展示ブース…高知地方気象台や高知県住宅課、株式会社フタガミによる防災展示や啓発が行われ、また、自衛隊による車両・防災機材の展示が行われました。

上記以外にも、情報収集伝達訓練や緊急輸送道路（高速道路）を使用し、自衛隊が救援物資を搬送してきたとの想定で、協定を結んでいる須崎東ＩＣの職員駐車場にて、地元消防団に医療物資を引き渡し、消防団が災害対策本部まで搬送する医療物資搬送訓練等も行いました。今後もさまざまな訓練を行っていきますので、市民の皆様のご協力をお願いします。